

『歩きが遅くなったので、山歩きを変える』を読んで

～会員・酎氏から寄せられたコメント～

小生は、『歩きが遅くなったので、山歩きを変える』の筆者「高齢者A」さんより4歳も若造ですが、心技体いずれの面でもAさんよりも高齢化が進んでいます。就中、Aさんが日々努力されている体力維持増進のトレーニングなどは全くやったことがありませんし、また、老境になったら老境の中でこそ相応しい登山の考え方や山歩きの方法などについても研究したことも考えてみたことも無いという怠け老人です。

このような怠け癖に恰好の弁解を与えてくれたのが昨秋に体調を崩して発病した業病（間質性肺炎）でした。この病気は国の難病に指定されていますので、この病に罹ったことに拠る体力・気力の激減は大手を振って堂々と弁解できるというシロモノであり、小生にとっては“山が遠のいて行く”言い訳をするための格好の特効薬でもありました。

（この病気は、肺が吸い込んだ空気から酸素を取り込む役目を担っている肺細胞がコンクリート化した為に、急激な運動をすると直ぐに息切れが起こりますので、例えば日本の山でもハードな登山は勿論のこと、普通の縦走登山なども出来なくなったことは事実です。里山逍遥程度が関の山です）。

さて、そのような瘋癲老人が無いアタマを捻って考え出した“悪智慧”は下記のようなシロモノでした。これは老境にあっても未だ未だ若かりし頃の“栄光”が捨てきれない瘋癲老人にはちょっとした特効薬のネタだと思えますので、恥を忍んで紹介する次第ですが、お読み頂ければお分かりになるように、やはり凡夫の猿知恵の域を出ないどころか、“無謀な馬鹿老人、無謀登山で遭難”という結末になりますので、下記のような小生の事例は決して真似をされないようお願いする次第です。

さて、上に述べたような体調では重力に逆らって登って行くのはすっかり厳しくなりましたので、同じ登山ルートを進るにしても頂上までは“他人の足”で登って、自分の足は重力が仕事をしてくれる下山ルートだけで使うという安直な方法は無いものかと廻らないアタマを捻ってみました。

古くは大財閥の当主大倉喜八郎が自社所有地の南アルプス検分と称して自分や数多の大奥の女人を籠に乗せて担がせ、風呂桶や酒なども担がせて200人のポーターを従えて赤石岳に登ったという大名登山の伝説もあり、また新しくは三浦雄一郎がアンデス・アコンカグア峰の頂上近くまでヘリで運んで貰ってスキーで滑降すると言う案（結果は高山病のためにヘリでも登れず）も記憶に新しいところです。

しかしながら当然の事ながら、貧者の小生には爪の垢を穿っても左様な資力は毛頭なく、本記事の筆者「高齢者A」さんが言われる「筋力の劣化は乏しい金力で補って、装備の軽量化に努める」ことが出来る程の財布の余裕も無いところが哀しいところです。そこで一計を思い付いたのが、頂上に近い場所までロープウェイか何かに通じている山なら、登りは若干のロープウェイ料金で稼ぐことができ、そこから下るだけなら大した体力も要らないのではないかという案でありました。このような山は探せば結構各地にあるのではないかと思います。まずは手近な所では谷川岳ロープウェイを使う手はないかと考えた次第です。

情けないことに、もう谷川岳本峰頂上まで登る体力も気力もありませんが、ロープウェイ終点の天神平から下れるルートでしかもちょっと通向きと自慢できるルートはないものかと物色したところ、昔の修験者が谷川岳登拝に使った修験道であった旧天神峠(1,350m)から保登野沢経由で谷川温泉に下るルートが目につきました。下山の標準コースタイムは2時間ということですから、我が劣化した脚力のゆっくり歩行ペースでも3～4時間もあれば御の字であろうと踏みしました。

天神平から旧天神峠へは、天神平スキー場がオープンするとスキーヤー以外は通行禁止になりますので、2022冬のスキー場オープン予定日12月1日ギリギリ前の2022年11月27日に急遽思い立って

試してしてみることにしました。天神平までロープウェイで上がってみると、天気掲示板には強風と降雪のマークが出されていましたが、スキー場には積雪は全く無く、僅かに天神峠付近に先日の残雪の名残が薄く残っている程度でした。上空には黒雲が早いスピードで流れていましたが、所どころに青空も見えていましたのでルンルン気分ですまは旧天神峠目指して登って行きました。

旧天神峠の古びた道標は倒壊していて「保登野沢方面へ」の標板も朽ちて地面に転がっていました。道は高倉山の南斜面を下るように付けられていて、初めの内は保登野沢の深い渓谷や麓にあるホワイトバレースキー場などの俯瞰がのんびりと楽しめるノンビリ道でしたが、下るに連れて段々と怪しいコース状況に変化していきました。旧天神峠の倒壊した道標の有様が何かを暗示しているようでした。

怪しいルート箇所に出くわした初っ端は、小さな沢を横切っている登山道が土砂崩れで崩壊している場所で、壁に叩きつけられた蛙よろしくズルズル滑る急な山腹斜面を手足を八の字に延ばして高巻トラバースをしなければならなくなった箇所がありました。ホールドになるような樹木や岩角は何も無く、僅かに生えていた雑草の茎束も握っただけで剥がれて抜けてしまうという塩梅で、土砂壁に両手の指先と両足の靴先を僅かに突っ込んだ不安定なホールドだけを頼りに 5m 程のトラバースを強いられました。足下はゴロタ石の落石の堆積で埋まった垂壁の井戸の底となっていて、もし足を滑らせればそのまま阿弥陀如来さまのご来迎という雰囲気のある場所だったので、久しぶりに昔やったロッククライミングでの墜落の恐怖が蘇り、心ノ臓がパクパクしてきました。

ルートはこれ以外にも、ゴロタ石の急なトレンチ径の上に枯れ落ち葉が積み重なっていて、落ち葉も下に隠れたゴロタ石もよく滑りました。滑って転ぶと運が悪ければ谷底まで滑落しそうな塩梅でした。また、斜面に付けられた細い径の路肩が崩れていて、足が置けるような平場が消失してしまっている場所もかなり沢山ありました。ここもズルズル滑る落ち葉の急斜面で滑れば谷底という場所でした。

怪しいルート箇所の圧巻は、径が保登野沢を徒渉している箇所が 3 箇所あって、橋などは勿論のこと踏み置き石などの人工的設置物は何も無く、飛び石伝いにも渡れないので靴を脱いで裸足になって徒渉しましたが雪解け水は足を切る程の冷たさでした。徒渉点を示す道標や踏み跡なども無かったので、このルートに登ったことがあるベテラン経験者同行でないとかなり厄介なことになると思われました。

以上のようなコースでしたから、旧天神峠から谷川温泉に下り終えるまでに標準コースタイムの 3 倍近い 5 時間半を要し、谷川温泉から水上駅まで日が暮れた真っ暗闇の中の山道を歩かなければならない羽目になりました。この小生の所要時間対標準コース時間の差は、小生の遅足の所為もありますが、かなりの部分は上で記したようなルート上の問題箇所の通過に手間取った結果でしょう。

問題箇所を通過するのに手間取れば、山中で草臥れ果てたり、タイムアウトで真っ暗闇になったりして道を失ったりする危険性が少なくなく、真夏なら兎も角、冬に入ったこの時期には遭難の代償も大きなものになるでしょうね。

以上の小生の恥ずかしき事例は、横着をして楽なコースで逃げ切るといふ魂胆でしたが、やはり谷川岳大明神さま（正確には富士浅間大明神）はこのような魂胆を見逃してくれる筈はなく、今回の問題も遭難事故に至らなただけでもマシというモノでしょう。小生も谷川温泉に辿りついた時にはヘトヘトに草臥れ切っていました。悪場や徒渉で神経を使い果たしたことも身体的疲労以上に精神的にも疲労した結果と思われます。谷川温泉から水上駅までの道はもうフラフラの態で歩きました。

やはり猿智慧は猿智慧にしか過ぎませんでした。皆様も高齢者 A さんの全うな提案を諒として尊重・遵守され、恥かしながら猿智慧の小生の愚を重ねないようにお願いする次第です。

【保登野沢コースへの補足】コースの途中には近年設置されたと思われる赤テープがあったが、径は暫くの間歩かれた形跡が全く無かった。また、廃道か獣道に変化しているような箇所が沢山見られた。このような箇所では滑落の事故が起きても不思議ではなく遭難事故の結果もシビアなものになると思われる。従って崩れた登山道を修復するか、或いは廃道にして立ち入りを禁止しないと早晚重大な遭難事故発生の危険性が高い。